

諫早干拓農業について証言 長崎県議会参考人

よみがえれ！有明海・国会通信

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

諫早干拓 環境保全型農業ではない

【横林和徳・農業者】●環境保全型農業

新干拓地農業は環境保全型農業と言えません。私は、30数年、農薬や化学肥料を減らした農業、主に果樹栽培に携わってきました。現在栽培するブルーベリー900本は10数年農薬を散布していません。このような体験から切実に感じるのは、今の干拓地の農業は環境保全型農業と呼ぶことはできないということです。「農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土作り等を通じて化学肥料、農薬の利用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業」との環境保全型農業の定義(農水省)からも、調整池という富栄養化の固まりのような汚濁水を作りだす、加えて毒性の高いミクロシステンさえ発生させる調整池に灌漑水を求める干拓地農業は、環境保全型農業という資格がありません。ましてや有機農業は存在しえません。日本有機農漁研究会の結成趣意書には、農業は経済外の面からも考慮すべきこと、人の健康保持や地力推進を図ると同時に自然保護・環境改善の使命感に目覚め取り組みことがうたわれているのです。

●代替水源 調整池に頼らず、代替水

源に切り替えることが干拓地入植者の未来ある農業を切り開くものです。代替水源には本明川や境川の水利権のなくなった水の利用もあります。諫早の下水処理場の年間227万トンの排水の活用も裁判で提案されています。下水処理水の利用について、諫早市や長崎県は、窒素濃度が8PPMだから使えないと言います。大変おかしなことです。農業用水基準の1PPMは水稻を対象としたものです。水をふんだんに使う稲作で、窒素含有率が1PPM以下となっていないのは、窒素過多で倒伏しないようにするためです。時々しか水をかけない畑作に県や市が水稻と同じ基準を適用して、処理水は不適合というのには認識不足ではないかと思えます。10aに10トンの処理水をかけても窒素は80グラムしか与えたことになりません。普通、野菜1作に窒素20キログラムが基準ですから、実際の栽培では無視できる量です。



それでも、心配というのなら、施肥設計で、チツソを減らせばよいだけのことです。

●溜池の設置 川や浄化センターから導水した水をためる溜池として、中央干拓地で売れ残っている宅地敷地や、小江干拓地に入植の資格がなかったTGFのリース契約を解消し、その土地の一部を溜池として活用することで解決できます。中央干拓地で溜池が不足するのであれば、今の中央干拓地の借受人がTGFのリース地と交換して、その跡地を溜池にすることも可能です。

●塩水遡上 長崎県と諫早市は昭和61年5月に起こった森山干拓地のハウスメロンで塩分遡上の被害が起こったとして開門反対の理由にしています。周年ビニール被膜で3年目に起こっています。おそらく塩分遡上対策としての水のかけ流しもしなかった条件下だと思えます。他方、県が2006年8月に発行した諫早干拓地より19号では、干拓地で16年秋作から試験栽培で、周年被覆下丸2年4作を経過しても塩害らしき症状はないと記述しています。県は自分に都合のよい情報のみを強調し、塩分遡上の危険を主張しています。

過去のメロン被害で、あたかも干拓地一般に塩分遡上が予想されるのかのように論ずることは事実を究明する態度から外れています。

昨年、熊本八代の昭和干拓地のトマトハウス栽培をみました。そこは海岸の堤防のすぐ傍です。球磨川か

ら取水された水が用水路を流れ、合わせて堤防とハウスの間が淡水でみたされた潮遊池がありました。この灌漑水と潮遊水が塩分の遡上を防ぐ役割をしてくれました。中央干拓地の内部堤防を補強すると同時に干拓地の周囲に潮遊池を設置し淡水を貯めるようにすれば塩分遡上は防げます。しかも、この淡水は背後地干拓地の水源にもなります。

●防風林の植栽 防風林の植栽をすすめます。強風を防ぐために道に沿った防風林をきめ細かく設置することが大切です。北海道の広い畑作地帯では、今の新干拓地の様に畑の端から端まで防風林がない畑は見ることがありません。防風林をきめ細かに設置すれば路地の果菜類も栽培可能となるでしょう。

●願いは農漁共存、話し合いの場の設置を 最後に、農業と漁業の共存、それと防災対策も図り、安心・安全の地域づくりが求められています。自然の干潟が復活すると人と自然のふれあいの場として、観光地としても押し出せる。今、干拓問題で地域住民同士が反目しあうのは不幸です。

大切なことは地域の農民、漁民、市民、研究者、行政がお互い腰を低くして討論することだと思えます。謙虚な話しあいの中で事実の共有を計り、一致点を見出す。そういう場の設置に県議の皆さんが力を尽くしていただくと心から願っています。